



(8) 名前のない新聞 No.211 / 2019年5・6月号

りょうきゆう
遠藤 暁及

危険な道楽、アースキャラバン(6)

果たしてローマ法王は、
原爆の残り火を吹き消すか？

このタイトルは、アースキャラバンが、現地メディアに流したプレスリリース（マスコミに流す情報）である。

昨年の夏、ベツレヘムにいた時、能天気な僕はローマ法王に会おう、となぜか思った。そして、「広島原爆の残り火を持ってパチカンに行き、パレスチナ人少女ジャナをローマ法王と会わせる」というプロジェクトを立ち上げた。

しかし考えてみたら、世界12億のキリスト教（カソリック）の頂点に立つローマ法王は、おいそれと気軽に会える存在ではなかった。

かと言って、簡単にひるむわけにはいかない。なにせアースキャラバンは、「イメージと行動力さえあれば、何でも実現できる！」を標榜しているのだ。

アースキャラバンの土台である、和田寺タオサンガ道場は「人生は面白い！」を体現するために修行するところだし、...

最初にしかるべき人に相談して言われたのは、「ローマ法王と特別謁見室で会えるのは、通常、王族か国家元首だけ」とのことだった。うーん、思ったよりもはるかに高い壁だ、...。実現は、ほとんど不可能に見えた。

しかし、我々が持っている有利な要素が一つだけあった。それは、何でも実現できると思ひ込み、ひたすら超スピードで行動する能天気な仲間が、世界各地にいることだ。

ちょっと紹介すると、オーストリアのアリス。医者でタオ指圧をやっている上、念佛三昧で深い霊的体験をしているという変わり種である。

カナダのアレックスは、なんと元、核技術者。それが今は、僧侶でタオ指圧を教えている。

ローレンスの出自はユダヤ人で、弁護士の学校に行っていたこともある。なのに、今や僧侶でタオ指圧で、パレスチナ支援者。一体、どうなってるんだ？

この3人と僕のチームで、それこそ毎日スカイプ・ミーティングしながら、筆舌に尽くしがたい様々なことを行った。（さらに日本では、長崎の智弓さんによる、怒涛の行動もあった）

“筆舌に尽くしがたい”って一体、何？、と言わ



れるかも知れないので、1つだけ書いておくことにしたい。

例えば、「ローマ法王の個人的な友人である神父さんがベツレヘムの教会にいる」、という情報を得た。僕はすぐに、ベツレヘムの友人たちに電話をかけまくった。神父に会って話し、協力を要請して欲しいと頼んだのだ。

彼らには快諾されたが、なにせパレスチナ時間である、...。時ばかり過ぎていく。何度もせつしたが進まない。

実は、その神父さんと連絡がつき次第、僕ら4人の内、誰か1人が2人がベツレヘムまで行くつもりだった。



たった2時間のミーティングをするために、ベツレヘムまで飛行機で、12時間かけて行く。たとえそれが、実現に結びつく保証がなくても、...

「可能性のあることなら骨身を惜しまず何でもやる」という覚悟がないと、ものごとは実現しない。これは人生の鉄則である。

結局、その神父さんは、ベツレヘムの友人たちがいくら電話しても、返さなかった。「ならば、13歳の有名な少女ジャナから手紙を出して動かそう」ということで、これも相当動いた。

しかし、結果はナシのつづてであった。が、それらが徒労だったとは考えない。少しでも可能性のあることに対して行動しなければ、可能性は開けないのだ。

膨大な作業を、無数に行っている内に、やがては針の穴を通るように実現の道が生まれて行くはずである。

実を言うと、このプレスリリースのタイトルは、「あらゆることをやったけど、さすがにもうダメか。」と思ったとき、起死回生の一発として考えたものだ。（現地の新聞を通じて、難攻不落のパチカンの壁を越えようとしたのだ）

実は僕らは、一か八か最大のギャンブルを行っていた。

すでに今回のプロジェクトに関わる全員のチ

ケットを買っていたのである。

日本、アメリカ、カナダ、パレスチナ、イスラエル、ヨーロッパ諸国からの総勢22人、...

そうしたら、神風は吹いた。3人が謁見OKという連絡が、こちらが希望していた謁見日のわずか数日前に、パチカンから入ったのだ。

さらに当日、現場に行ったら、何と全運がローマ法王に特別に謁見することになった。通常ではあり得ない、びっくりの展開である。

説教が終わった後、ローマ法王は本当にわれわれの前に現れた。パレスチナから連れて行った13歳のジャナが、「法王様、もう2度と長崎、広島悲劇が起きないように、火を吹き消してください」と言った。

すかさずアリスが、「原爆の残り火」のついたランプを差し出すと、ローマ法王は、ためらいもなく吹き消された。

全員、拍手！嬉しくなった僕は、思わずローマ王と握手する。アリスの音頭で、アースキャラバンのテーマソング“Share!”を歌った。

日本からお土産に持っていった純米酒（玉乃光）と「Share!」（アースキャラのCDを、ローマ法王に差し上げると、「For me?」（私にですか？）と微笑まれた。

サー口節子（被爆者）さんは、「ぜひ日本政府に対して、核廃絶に署名するよう求めてください」とお願いされ、ローマ法王は優しくうなずかれた。

それにしても、...、「今回ばかりは、さすがにもうダメか、...」とチームが敗戦ムードになった時、「みんな諦めないで！まだ撤退するのは早いわよ！」と檄を飛ばし、このタイトルのプレスリリースをマスコミにかけたアリスの勇氣には、脱帽した。

何も失うものがないというのは強いもんだ。

アースキャラバンのような、はみ出し者たちでも、捨て身で動けば世界を動かすことができるのだ。

※当日のことは、海外でもトップニュースになっていた。現地映像は、アースキャラバンのサイトからご覧頂くことができる。<https://earthcaravan.jp/> またはアースキャラバンで検索

アースキャラバン

NPO 法人アースキャラバン
（京都タオサンガセンター内）
TEL/FAX=075-551-2770



アースキャラバンのサイトにリンクして下さり

